●●学園135th文化祭記念冊子

K＊＊＊＊＊

Professional Baseball

発行元

プロ野球研究会

はじめに

※かな～り適当にＰＤＦ化しますた（汗
万が一印刷用のが欲しい場合がありましたら連絡して下さい
ちなみに万が一ＨＴＭＬ化しろと言われてもやりません（おい
…そりゃ希望が多ければやらざるをえないでしょうけど、まあ許して下さいです。
以下の企画の中で僕が一言も書いてないのは内緒ですw
会員のみんなが頑張ってくれたんですよ。改めて感謝感謝と。
あ、そういやＫＰＢクイズの出題者が書いてないですね。
チャレンジ編を考えたのはサード村田で、他のはユースケです。
いや、初球編はサード村田…じゃなくて僕じゃないですか。
よかった。少しは自分の頑張った分があったw
ちなみに志というタイトルは仁志選手の横浜移籍を予言してつけたものです（嘘
よし、空きスペース埋め終わりっと。
よろしければ全部読んでやって下さい。みんな頑張って書いたんですから

●●学園プロ野球研究会初代会長兼ＫＰＢ公式ウェブサイト正管理人　ＫＰＢ

目次

・アダム・リグス～２年目の飛躍…３～４頁
・ドラフトの星高校生編……５～14頁
・ビバオツ……15～17頁
・ドラフトの星大学・社会人編……18～21頁
・ＫＰＢクイズ……22～31頁

廊下・階段装飾ポスターのクイズ解答

1．今日現在通算ホームラン数が一番多いのは？
①山崎武司内野手　②小笠原道大内野手　③緒方孝市外野手

A．山崎武司内野手

2．今日現在通算勝ち数が一番多いのは？
①松坂大輔投手　②上原浩治投手　③三浦大輔投手

A．松坂大輔投手

3．「桟原」の正しい読みを答えなさい
①せんばら　②さじきはら　③さじはら

A．さじきはら

4．「堂上」の正しい読みを答えなさい
①どうじょう　②どのうえ　③どのがみ

A．どのうえ

アダム・リグス～2年目の飛躍～

研究者：ユースケ

今シーズンの初め、誰に言っても笑われたことが2つあった。
そのうちの1つは「今年も巨人は弱い」。
4月にロケットスタートを切ってもなお、僕は言い続け、笑われ続けた。
しかし、徐々に調子を落とし、現状は言うまでも無い。
この予想が当たったことに僕はとても満足した。
もう1つの予想も僕にとって満足させる結果が出た。それがリグスの活躍である。
「2割8分、20本は堅い。うまくいけば3割30本もある。」と予想していた。
そして現在、30本塁打をクリアし、打率も3割前後を推移している。
そんなリグスの日本球界での活躍を紹介する。

1．リグスの1年目

リグスはたまにメジャーリーグに昇格するものの基本的にはマイナーリーグ暮らしで、
多くのチームを転々としたのち、
「一塁・二塁・三塁・外野が守れる俊足のユーティリティープレーヤー」
という触れ込みで日本球界にやってきた。
しかし、肩が弱い上にやや送球に難があり、打撃も変化球にもろかった。
結局、開幕は2軍スタートとなり、1軍には昇格したものの5試合で打率.111と低迷した。
しかし、鈴木健の離脱もあり、徐々にスタメン出場の機会が増えるとともに調子が上向き、
交流戦では24試合に出場して打率.358と大当たり。
しかし、6月11日以後1ヶ月間スタメンから遠ざかる。
しかし7月18日にスタメン復帰した後は8月に8打席連続安打を記録したり
藤川球児投手に2005年唯一の黒星をつける本塁打を放ったり
8月以降で12本塁打を放ったりと活躍を見せ、
規定打席には届かなかったものの打率.306、14本塁打、44打点を記録した。

2．リグスの転機～2番打者へ～

監督が古田選手兼任監督に代わり、迎えた2年目。リグスにとって転機となる発表があった。
それは「2番・リグス」である。
古田監督いわく、「リグスは足もあって併殺も少ないし、
リグスを中軸に持ってこなくても打てる選手が揃っているから。」
だそうだ。これが、今年の活躍を後押ししたひとつの要因である。
2番に座るというとは、当然のことながら1番打者の後ろを打つということである。
ヤクルトの1番打者は青木であり、彼は足がある。
相手投手は青木の足のことを頭に入れなければならず、配球が直球主体になったり、
ウエストボールがあったりと打者にとって有利になってくる、というわけだ。
もともと直球に強いリグスは、当然打ちやすいわけである。
本人もシーズンに入ってから自身の活躍について、
「監督が自分の力が一番発揮できる打順に置いてくれているからだよ」と語っている。

3．リグスの2年目

春先こそやや調子が上がらず、宮本の好調もあり打順が固定されなかったが、
5月4日に2番に座った後は全試合に2番で出場し、それ以来調子が上向きに。
特に、交流戦での13本塁打、30打点と大活躍を見せ、5月の月間MVPも獲得した。
しかし、交流戦終盤からやや調子を落とし、6月・7月は2割台中盤と低迷したが、
8月は打率.384、12本塁打、25打点と大爆発。今年2度目の月間MVPを獲得して、今に至る。

4．あとがき～リグスのこれから～

リグスは年俸8000万円で、10月4日には34歳になるものの
今年これだけの成績を残していることを考慮すると来年も残留することは確実だろう。
来年以降も打棒を発揮してもらいたいものだ。
しかし、9月16日に筆者が神宮球場のビジター側に応援しに行ったとき、
スタメン発表でリグスの名前が呼ばれたとき
「リグスって誰だ？33本もホームラン打っているのか。知らないなあ。」
という声が聞こえた。
野球場に来る人でさえこれだけ活躍しているリグスを認知していない人もいるのである。
そこで僕は、そんな人たちに少しでもリグスを知ってもらおうとこの文章を急遽作成した。
執筆期間が短かったことがあり内容は薄く、
野球に熱を入れている人からすれば常識に近いことばかりだったことを御了承願いたい。

※以下はメモ欄にゃ～

ドラフトの星たち～高校生編～

研究者：サード村田絵美

昨年の高校生ドラフトは、初めての分離ドラフトとして行なわれたが、
選手のレベルが高く大豊作だと言われた。
今回はその一巡目で指名された選手たちが、
あれから一年たって今何をしているのかを調べることにした。

まずは、各球団の指名選手の確認から。
楽天……片山博視　　投　報徳学園高
広島……鈴木将光　　外　遊学館高
日公……陽仲壽　　内　福岡第一高
読売……辻内崇伸　　投　大阪桐蔭高
樫近……岡田貴弘　　外　履正社高
ヤクルト…村中恭兵　　投　東海大甲府高
西武……炭谷銀仁朗　捕　平安高
横浜……山口俊　　投　柳ヶ浦高校
ロッテ……柳田将利　　投　青森山田高
中日……平田良介　　外　大阪桐蔭高
ソフト……荒川雄太　　捕　日大高
阪神……鶴直人　　投　近大付高
（なお、片山、陽、辻内はそれぞれ抽選で、広島、ソフト、樫近に勝ってのもの。）

では、一人ずつ。尚、成績は２００６年９月１３日現在のもの

楽天…片山博視１９１センチ８６キロ左左　１９１センチのサウスポー未完の大器

高校時代、どんな選手か？
一年秋から、エースと四番をまかされた。
甲子園に登場したのは二回、二年の選抜、夏。

センバツでは初戦で東海大山形に敗れた。
内容を見ても１３０ｋｍ前後のストレートとスライダーで淡々と抑えていく投球で、
確かに好投をしていたが、ドラフトの目玉になるとは感じられなかった。
夏にも兵庫大会を制したものの甲子園の初戦で横浜高校に８失点と打ち込まれ、
１９１ｃｍの長身左腕といっても躍動感、
ダイナミックさというものが感じられず、ドラフト上位は無いかと思われた。
しかし３年の春の大会の投球で、これはドラフト上位だという投球を見せたらしい。
スライダーのキレがすばらしくまだまだ下半身が使えてなく、
ダイナミックさには欠けているものの、バランスの良いフォーム、特上とまでは行かないが、
しなって伸びる腕の振りはまさに素材型といわれた。球速は１３５ｋｍ前後だが、
下半身を鍛えて使い方を覚えれば球速は１４０ｋｍ～１４５ｋｍまでは簡単に伸びるだろう。
今の変化球のキレをキープさえすれば、パワー型でもしなやか型でもない、
新たな大型左腕投手の誕生となりそうだ。といわれていた。二年の夏を境に急成長をとげた。
また打では、名門報徳学園高で四番にすわり、高校通算３６本塁打を記録した。

現在…イースタンリーグでの登板は、まだ一試合。
　　今は投球フォーム固めと、体作りに必死。素材型だから、これは想定内。
将来…プロ野球では、１９０センチを超える大型左腕は、大成しないと言うジンクスがある。
　　（一軍で活躍してるのは横浜那須野くらいかな）しかし大型にもかかわらず、
　　柔らかさを兼ね備えた良いフォームで投げていたので、
　　将来、唯一無二の大型左腕になるかもしれない。繰り返すが
　　素材型なのであと何年かは、名前を覚えてじっと一軍での活躍を待ちましょう。

広島…鈴木将光 182センチ77キロ右右　走攻守＋高校通算64本塁打のアスリート選手

高校時代、どんな選手か？
一年秋から、石川県の新興勢力の強豪、遊学館高校で一年春からレギュラー。
甲子園には二年夏、三年夏に登場。二年のときから四番で、守備走塁はすごかった。
守備位置は最終的に外野でセンターだったが、
ショートもこなし投手として１４０キロを計測した。
甲子園では、相手のセンター前安打を
あわやセンターゴロにしてしまうような魅せる守備をする。一試合四盗塁も見せた。
打撃は、同県の松井秀喜の６０本をしのぐ通算６４本を放った。
父は元卓球選手、母は陸上選手と生まれながらのアスリート。
５０メートルは５・８秒、遠投は１１０メートル。
一部のスカウトなどは「キャチャーをやらせたら城島クラスになるかも」
とか「外野はもったいない。ぜひショートで」ともいわれた。

現在…ウエスタンリーグ出場なし。情報がなかなかなくてわからないが、
　　からだをつくっているようだ。プロでは外野一本の様子。
　　（一度肩を怪我したという噂を聞いた）
将来…うまく育てば、走攻守三拍子そろった、
　　元西武秋山幸二のようなスーパー外野手になるだろう。
　　本人も三割３０本３０盗塁、通算４００本塁打４００盗塁も狙うと宣言しているので、
　　そのような選手になるだろう。
　　まだ二軍の試合にも出る気配がないので、来年二軍で、再来年一軍昇格、
　　三年後新球場が出来るあたりでレギュラーになるのではないだろうか。

日公…陽仲壽１８２センチ７９キロ右右（現在は両打）台湾からやってきた大型ショート

高校時代、どんな選手か？
台湾から福岡県福岡第一高校にやってきた留学生。
また台湾の先住民（台湾の人口の２％）である。
甲子園出場はなし。高校時代を一度も見たことはないのだが、
高校通算３９本塁打。ただしあまりの強打のため四球攻めにあっての数字である。
また、逆方向にも強い打球を飛ばす。
台湾先住民の血筋の下地で体のばねがすばらしく、関節が柔らかい。
肩も強肩で、走れば５０メートル５・８秒。
守備はこの身体能力を生かした、華麗で鮮やかな守備を見せる。
ただし中学まで台湾で野球をやっていた為基本がしっかりしていなかった。

二歳上の兄は福岡・第一経済大でプレー。
四歳上の兄は、ソフトバンクホークスでプレーする、陽耀勲。
実はこのドラフトで指名された選手より台湾の教育制度の為に、学年がひとつ上である。

現在…試合 85 安打 94 HR9 打点 34 盗塁 5 四球 38 打率. 288　二軍
　　まず、陽はＷＢＣの台湾代表であった。
　　その調整の為、二月の後半は他球団との練習試合に参加していた。
　　しかしここでは守りではエラー連発、打撃では三振連発と、
　　やはり格の違いを見せ付けられた。結局ＷＢＣで台湾は一次リーグで敗れ、
　　陽の出番はなかった。そして月日がたちイースタンリーグが開幕すると、
　　今現在まで全試合にスタメンで起用されつづけている。
　　成績は上に記したとおりだが、高卒ルーキーでこの数字は、かなり立派である。
　　下に高卒野手の一年目から活躍をした選手の成績を上げる
　　今江　（ロッテ）. 271 7本 24点
　　江藤　（当時広島現西武）. 239 8本 33点
　　吉村　（横浜）. 276 12本 41点
　　岩村　（ヤクルト）. 316 10本 38点
　　このように、現在一軍で大活躍する選手に肩を並べる。
　　また特筆すべきは、四球の数である。
　　このように四球が選べる選手はボール球を振らないので選球眼がよいということだ。
　　さらに、７月にフレッシュオールスターに出場。
　　そして後半戦開始と同時に、スイッチヒッターに転向した。
　　そしてなんと転向した直後八月に月間ＭＶＰを獲得した。
　　守備は現在イースタンリーグでショートとサードを半分ずつくらい守っている。
　　ただ、やはり子供のときから守備の基本を教わっていない為なのか、
　　イースタンリーグぶっちぎりワーストのの３０個を記録している。
将来…入団当初は、アレックスロドリゲスのような選手になるのかと予測していたが、
　　実験的に行なったスイッチヒッターが成功するという
　　かなりの非凡なセンスを見せ付けているので将来は、
　　かつてないようなスーパープレーヤーになってしまいそうである。
　　ただし問題は守備で、これが改善されないと、将来外野コンバートとか、
　　一軍二軍を言ったり来たりだとかになりかねない。
　　今年の秋、来年の春のキャンプで徹底的に鍛えて人並みにエラーしなくなれば、
　　攻撃力のある選手だけに来年大ブレークもあるかもしれない。
　　またサードショートに絶対的レギュラーがいないため、
　　チャンスは存分にころがっているであろう。
　　これは断言しておこう、将来どのポジションを守るかはわからないが近い将来、
　　客を札幌ドームに呼べる選手になる！

読売…辻内崇伸１８３センチ８５キロ左左　max156キロ怪物左腕

高校時代、どんな選手か？
後に紹介する岡田貴弘、平田良介、鶴直人で形成される難波の四天王の一人。
２００４年の公式戦デビュー時に、恐ろしいピッチャーが現れたと評判になった。
このときに１４５キロ前後のボールを投げまくり、スカウトを唖然とさせた。
そして昨年の夏の甲子園で、１５６キロという日本人左腕最速、
甲子園最速スピードをたたき出しさらに二回戦藤代高校戦で一試合１９奪三振を記録し、
ベスト④になり、その名は全国に知れ渡った。
この大会にはメジャーリーグのスカウトたちからも熱視線を浴びた。
まさに化け物ではあったが、一回戦はノックアウトされたり人間らしい部分を見せた。
また、監督の証言や雑誌のインタビューを聞くと
性格がまじめでおとなしくて無口なためプロでやっていけるか心配だともいわれていた。

現在…12試合　50.2回　奪三振44　四死球33　防5.15（3勝3敗）　二軍
　　開幕からファームのローテーションを守っていたが、
　　途中故障で離脱や１イニング８失点KOなどもあり、順風満帆とはいってない。
　　ただ五回１１奪三振の試合など、本来のピッチングをすればプロといえども、
　　空振りのとれるまっすぐがあるということを証明している。
　　試合で投げているがまだ育成段階であることには変わらない。
　　また心配された性格の面も、うまくやっていけている様子。
将来…当面の課題は、コントロールと決め球になる変化球と
　　安定感のあるピッチングを出来るようになることである。
　　これが克服できれば、素材が抜群なのだから球界を代表する投手になれるだろう。
　　タイプで言えばメジャーリーグに行く前の石井一久だろうか。
　　しかしこれが出来ずに、プロを去っていったピッチャーも多数いる。
　　そうならないようにがんばってもらいたい。
　　現在二軍の投手コーチには、投手育成に定評のある小谷正勝がいる。
　　良い投手になるのは本人の努力も必要だが、良い指導者にめぐり合う事も重要だ。
　　この点では恵まれている。一軍デビューに関しては、
　　二軍の試合で結果が出せれば今年はないにしても、来年早々あるかもしれない。

檻近…岡田貴弘１８６センチ９３キロ　高校通産５５本塁打のスラッガー

高校時代、どんな選手か？
浪速の四天王の一人。浪速のゴジラと呼ばれている。
身長体重からわかるように、ゴジラ松井クラスの体の持ち主だ。
背筋力握力スクワットベンチプレス…などの数値はプロ以上をたたき出す怪力の持ち主だ。
甲子園出場はないが、阪神に入団した鶴や楽天の片山などの
実力のある投手からも、ホームランを放っている。
あまりの打球の速さに、相手の二塁手の顔にライナーが直撃して病院送りにしたり、
打撃練習で場外弾を打ちすぎるので木のバットで打たされたり。
バットでキャッチャーのミットを叩き落しながらもセンター前ヒットを打ったり、
伝説を上げればきりのない選手。
そして極めつけは、二試合にまたがる五打席連続敬遠である。

ここまで伝説を挙げれば、ゴジラの名前が出てくるのもわかるだろう。

現在…試合３　安打１　HR0 打点０　盗塁０ 四球０　打率.167　一軍
　　試合 74 安打 63 HR4 打点 24 盗塁 6 四球 16 打率.236　二軍
　　高校時代を考えると少し寂しい成績ではある。原因はどこにあるのだろうか？
　　高校時代から木のバットで練習していたため、そのせいとは考えにくい。
　　力が落ちたわけもない。
　　原因はひとつ、投手のレベルがたかいからだ。
　　まずウエスタンリーグはかなりの投高打低である。
　　阪神中日ソフトバンクといったところの実力がある投手が大勢投げているからだ。
　　ただこれは岡田にとっては、一軍に上がった時のためにはプラスだ。
　　またフレッシュオールスターでも、二塁打と本塁打を放ち優秀選手になった。
　　これでおお舞台強いことを証明した。一軍では、初安打をすませた。
　　ちなみに守備は、主に一塁をやっているのだが、１１個のエラーを犯している。
　　まあ一軍には指名打者があるからいいのかな…
将来…高校時代から、長距離砲としてプロでやっていくための技術である、
　　「ひきつけて打つ」「最短距離からバットを出す」ことが出来ていたので、
　　あとは慣れと結果。この二つがあれば、はやければ来年にもレギュラーだろう。
　　若いスラッガーがいないオリックスなので、ありえるだろう。
　　また左手が利き手で左打ちの本塁打王というと、
　　王貞治、松中信彦といったところである。
　　二人のような利き手で、ボールを押し込むような打撃が出来るようになれば、
　　将来通算本塁打５００くらいも可能なはずだ。
　　というか岡田がやらないと、この先誰も出来ない気がする。

ヤクルト…村中恭兵１８６センチ８０キロ柔軟性のある大型サウスポー

高校時代、どんな選手？
高校時代はあまりに良い素材すぎて、
なかなか試合で使ってもらえなかったたため、情報はあまりない。
最速１４４キロのストレートを投げるのだが、最大の特徴はひじのしなりである。
これは教えても出来ないことであるので、それだけで希少価値である。
またバック転ができる運動神経がある。そのうえ長身左腕、である。甲子園出場はなし。

現在…７試合 27.1 回　奪三振 25　四死球 17　防 6.91（2 勝 1 敗）　二軍
　　二軍で投げながら、下半身などを鍛えプロの体を作っているところだ。
　　防御率こそ良くないが、奪三振が多いところが将来性が期待できる。
将来…このタイプの投手はあまりプロでもいない。しいて言うなら今中慎二だろうか。
　　ただこのようなひじがしなるタイプは、怪我に要注意してほしい。
　　まだまだ課題は多い様子だし、
　　怪我も多いので中心選手として活躍するのは、まだまだ先のようだ。
　　なお、古田監督はチームの順位が決まったら、
　　今年の最後のほうに使うというコメントを残していたので、ぜひみてみたい。

西武…炭谷銀仁朗 180センチ93キロフットワークとスローイングが抜群の強打の捕手

高校時代、どんな選手か？
甲子園出場はなし。京都府大会４本塁打の新記録、高校通算４８本塁打の剛打を誇る。
二年の五月にオープンスタンスにフォームを変えたと途端に連発し出した。
もう少し早く変えていたらいったい何本打っていたんだろう。
また府大会で満塁で敬遠されたこともある。
一方早く強く正確なスローイングがすごい。１．８８秒というタイムをたたき出す。
これは、プロなら２秒で合格だからどれだけすごいかおわかりだろう。
また小学生のときに水泳でジュニア五輪に出場をした。

現在…試合49 安打21HR 3打点14 盗塁0四球2 打率.169 一軍
試合10 安打 5HR 1打点 3 盗塁0四球1 打率.185 二軍
キャンプからその頭角を現し、オープン戦でも2本塁打、
5割近い盗塁阻止率をマークするなど高卒新人とは思えない活躍。
これにより、谷繁元信以来17年ぶりとなる高卒新人捕手の開幕一軍、
さらには2006年3月25日のオリックス・バファローズ戦では谷本稔以来、
51年ぶりとなる高卒ルーキー捕手の開幕戦スタメンデビューまで果たした。
また、この試合では7回に中堅へ安打を放ったが、
高卒新人が開幕戦で安打を放ったのは、立浪和義以来2リーグ分裂後4人目の快挙。
また翌3月26日の試合では19歳の涌井秀章と共にバッテリーを組み初勝利、
10代バッテリーとして17年ぶりの勝利となるなど、
捕手としての最年少記録を次々と記録している。
3月29日の福岡ソフトバンクホークス戦で、プロ初本塁打を満塁本塁打で記録した。
また同じ試合で2号本塁打も記録。高卒新人の捕手がルーキーイヤーに
満塁本塁打を放ったのは、史上初のことである
（高卒新人の満塁本塁打では清原和博以来、高卒新人の1試合2本塁打は松井秀喜以来）
06年5月12日には打率.160という不振と守備面・リード面でのミスが目立ったため
プロ入り初の2軍降格を経験したが、6月6日に1軍復帰するとその日の試合で
即スタメン起用され先制点を挙げるなど活躍し、再び一軍に定着した。
ちなみにそれ以降細川のレギュラー定着に伴い
涌井の先発時のみスタメンという起用法が続いている。
フレッシュオールスターにもスタメンで出場し、センター前ヒット一本を放った。
将来…捕手としての能力（フットワーク、スローイング、観察力などなど）で
足りないものはあと経験だけである。
これさえあれば即ゴールデングラブは取れるだろう。守備は城島以上になれるだろう。
問題は打撃。スラッガーとしてやっていきたいのか、
確実性を求めるのか今ははっきりしていないようなのでそれを決めるのが先決。
遠くに飛ばす力があるのは証明済みなので、スラッガーで生きたほうがよいと思う。
やはりスラッガーには限られた人しかなれないのだから…。

横浜…山口俊１８７センチ９０キロ　スケールのでかい本格派右腕　右右

高校時代，どんな選手か？
甲子園出場は、１年夏３年春。１年春に２イニングを投げ最速１３８キロを投げた大器。
この時点ではこの世代での評価が一番高かった。
そして再び頭角をあらわしたのは、二年の秋の明治神宮大会である。
このときに山口の柳ヶ浦高校が優勝し注目を集めた。
そして、出場した春の選抜では１回戦敗退も１５１キロを計測し、
怪物だといわれ評価は揺るぎのないものになった。
後のコメントでこのときは調子が良くなかったと語っている。
３年の夏の大会でひじをいため、評価が下がったが横浜が一巡で指名し、無事プロ入りした。
身長体重が示すようにとにかくでかい。それもそのはず、父親は大相撲元幕内の谷嵐である。
また、子供の頃から四股を踏んだりして、下半身の強さは抜群である。

現在…5試合　21.0回　奪三振17　四死球10　防6.43（1勝2敗）一軍
5試合　23.0回　奪三振23　四死球15　防2.74（0勝1敗）二軍
チームの育成方針と怪我の影響で開幕こそ二軍であったが、
上記のようにイースタンで結果を残すと2006年6月23日に1軍に初昇格し、
29日に巨人戦で初登板初先発。
高卒新人の巨人戦での初登板初先発初勝利は1987年の近藤真一投手以来19年ぶり
（「高卒新人」以外を含めても1997年の黒田博樹投手以来9年ぶり）。
6回を投げて被安打2・無四死球・1失点の好投を見せた。
5回2死までパーフェクト、
李承燁を2打席2三振と封じるなど大物ぶりを予感させる内容であった。
その後
7月15日 vs.広島　　５回５安打４奪三振４自責点
8月 3日 vs.中日　　２．２回７安打２奪三振６自責点
8月12日 vs.ヤクルト　５回５安打５奪三振２自責点
8月27日 vs.中日 ２　　１回３安打１奪三振２自責点
といずれも間隔をあけ大事に起用された。
しかし課題も多く見つかったため、再び二軍に戻り来年へ向け訓練中である。
またフレッシュオールスターにも出場し、先発の大役を果たした。
高校時代の１５０キロを超えるボールは披露していないがこれはしっかりとした
フォームを身につけている段階であるので、そのうちお目にかかれるだろう。
将来…上の成績には書いていないのだが、この投手は被本塁打が激しく多い。
一軍で８本打たれている。本拠地が狭い横浜スタジアムであるが、この数値は異常だ。
まったく関係ない話だが、山口の前に背番号１１を付けていた斎藤隆も
よくホームランを打たれるピッチャーであった。
まあコントロールがもう少しつけば、減るはずではある。
ほかに課題は、決め球となる変化球、今はスライダーカーブフォークがあるが、
どれが得意というものはない様子、ストレートの球威、
スピードがあるだけに空振りの取れる球がほしい。あとは、精神面だろう。
ツーアウトからの失点、ホームランを打たれた直後に乱れるという事が多いので、
精神的に強くなって、克服してほしい。
来年は、このあたりの課題を克服し、

開幕からおそらく先発の柱としてやっていくであろう。
今年の涌井秀彰のように来年は二桁勝つ意気込みでいってほしい。
将来は２００勝出来る素材である。

ロッテ…柳田　将利 １７８センチ１０５キロ　打って投げて豪快な左腕　左左

高校時代、どんな選手か？
高校野球甲子園大会には、2004年の夏と、2005年の春と夏に、
合計3回ともエースナンバーで出場を果たした。
又、柳田が打席に立つ時には、応援側から清原和博のテーマ音楽が流れた事でも知られる。
高校通算本塁打は36本、ストレートのMAXは149キロ。
甲子園では、打ってはホームラン、投げては完封という離れ業をなしとげた。
得意な変化球はスライダー。
握力は９０キロを超え、巨体に似合わずバク転ができるという運動神経の持ち主。
プロでは、投手を中心に練習するが、打撃の練習もさせる様子。

現在…22試合　25.0回　奪三振20　四死球18　防6.48（1勝2敗）二軍
　　現在は結果が出せていないが、徐々に自分の投球が出来るようになっているそうだ。
　　打撃のほうは、イースタンで1打数0安打と今は投げるほうに集中している。
将来…正直今のプロ野球選手でイメージが重なるのは、前川勝彦くらいである。
　　その為どうなるかは、全然想像がつかない。
　　高校時代は変化球とストレートの腕の振りの違いで打ちこまれたことがあったが、
　　プロはわずかな違いも見逃さないので、この点に注意が必要だろう。
　　パリーグに入ってしまい、自慢の打撃を披露する日はいつくるのだろうか…

中日…平田　良介 １７８センチ８４キロ　右右

高校時代、どんな選手か？
浪速の四天王の一人。
2005年度の夏の甲子園大会準々決勝・東北戦（宮城）で、
PL学園・清原和博内野手（現オリックス）以来の1試合3発で球史にその名を刻んだ。
大阪桐蔭高では1年秋から4番を任され、高校通算70本塁打を放った。
父の日などの記念日にはホームランを打つなど必ず何かをする、勝負感のある選手。
落合監督曰く、「今年（2005年）のドラフトで俺が認めたのは平田だけ。
　　そういう選手がいない年だってある。あれだけ振れる選手はそうはいない。
　　鍛えれば俺以上の打者になる」と平田を絶賛している。
また、高校時代センターを守っていたが、５０メートル５．７秒、遠投１２０メートルで、
鈴木将光とこの世代の外野手の，双璧の守備力を誇る。
2005年9月頃にアジアAAA選手権における韓国戦で右肩を亜脱臼したため
手術する予定だったが予想以上に急速に右肩が良化してきたのを受け回避する事が決まった。
この怪我と、独特なオープンスタンスのフォームで一巡指名は、中日1球団にとどまった。

現在…試合２　安打 0 HR0　打点0 盗塁0 四球0 打率.000 一軍
　　試合36 安打27 HR2 打点18 盗塁1 四球7 打率.267 二軍
　　4月26日に二軍デビューを中前ヒットで飾る。
　　5月21日に蒲郡でプロ入り初ホームラン。
　　8月26日に初の一軍昇格を果たし、
　　同日ナゴヤドームの横浜ベイスターズ戦の９回裏に英智に変わって代打で
　　プロ初出場を果たすも木塚敦志の前にサードゴロに倒れ最後の打者になってしまう。
　　そしてすぐに二軍落ち。「あの打撃フォームで打てるはずがない」
　　という評価をする人が多かったが、
　　好投手がそろうウエスタンリーグでこの成績を残しているのだから立派である。
　　幸い怪我の影響もない様子で、順調なスタートを切っている。
　　特筆すべき点は、打点の多さである、高校時代から勝負強さに定評があったが、
　　それはプロでもかわらないようである。
将来…三冠王落合が認めた逸材なのだから、きっと将来はすごいバッターになるのだろう。
　　打撃フォームを馬鹿にした人たちを早く見返してほしい。
　　また本人は、メジャーリーグにあこがれているようである。
　　イチロー、野茂は自分のフォームを貫き通す、という共通点があるので、
　　果てはメジャーリーガーかもしれない。
　　守備のほうもかなりの活躍が期待できるであろう。
　　いずれにしても、記憶に残る選手になるのは間違いないであろう。
　　一軍定着は、二軍で結果を残しているし、
　　若い外野手が少ない中日なので、レギュラー奪取もそう遠くはない！

ソフト…荒川　雄太１８１センチ８７キロ２秒を切る２塁送球力強い打撃の捕手　右右

高校時代，どんな選手か？
甲子園出場経験はなし。強肩強打が魅力の捕手。
２秒を切る二塁送球を誇り、ベスト４になった三年生夏の大会では、
１回しか盗塁を試みられなかった、という強肩。
高校通算は本塁打は２６本。他の候補たちと比べると少なく見えるが、
桐光学園のエース山室公志朗(現青山学院大学)から満塁ホームランを放つなど強い相手から
よく打ち勝負強い。余談だが、高校通算本塁打は公式戦のみならず、
練習試合で打ったものも含めるため、そもそもの試合数に違いが生じ、
また球場の大きさも関係し平等な数字とは言えない為、実は余り参考にならなかったりする。
高校通算本塁打が最多と言われているのが、大島裕行（現西武、当時埼玉栄高）の８８本。
本当に一位なのかは定かではない。荒川の話に戻す。投手への気使い、
相手打者との読みあいなどに、未熟さを残している。足は、かなりの鈍足らしい。

現在…試合42 安打13 HR2 打点*6 盗塁1 四球*8 打率.165 二軍
現在二軍で領健、中西健太、大野隆治という若手捕手たちと、
試合出場を分け合いながら二軍で経験を積んでいる。
　　高校時代圧倒的な打力を誇っていたわけではないので、
　　この代の一巡目の他の選手と比べると打撃成績は劣っている。
　　捕手というポジションのため、学ぶことが多くて大変なのも、
　　数字が残せていない原因でもあろう。

打よりは守りがメインで指名された選手なので仕方がない。
守備は、盗塁阻止率がわからなくて詳しく書けない。
ただ、捕逸がリーグワーストの５つである。
やはり、プロのフォークボールなどの切れの良い変化球になれていない様子。
将来…現在一軍では、山崎勝巳が正捕手で、二番手に的場直樹というかたちをとっている。
山崎はそこそこやっているが、前の正捕手の城島と比べると、センスが感じられず、
盗塁阻止率もいまいち。はっきり言って荒川はいまは、正捕手へのチャンスである。
まあ、捕手を一人前にするのは、５年以上かかると言われているので、
しばらくは無理であろう。
これから先、ファームでの正捕手争いに勝つことが、何よりも最優先だ。
捕手は実践で学ぶことが多いので、自分で出場機会を奪い取らないと成長できない。
捕手としての素質の体の強さとスローイングでは、
ソフトバンクの捕手の中でも、１、２を争う力があるので、学ぶべき事を学べば、
競争に勝てるであろう。将来正捕手になったときに、どんな選手になっているかは
これからの伸びにかかっているので、あまり予想は出来ない。

阪神…鶴　直人１８０センチ７１キロ　最速１５１キロの身体能力が高い右腕　右右

高校時代、どんな選手か？
浪速の四天王の一人。甲子園の出場はなし。
だが、しなやかな腕の振り、理想的な重心移動、
打者の胸元を大胆に突いて行くマウンド度胸、軽快かつ判断力に優れたフィールディング。
そして、目の当たりにすれば分かる絶対的な存在感。
投手として必要と思われる資質を兼ね備えている。
それらは教えられてどうにかなるという次元のものではなく、天から授かった才である。
まさに、投手をやるために生まれてきた人間。
父、母、兄とバレーボールで活躍。その血筋を引き継ぎ、身体能力が非常に高い。
特筆すべきは２９０キロの背筋力。これが、最速１５１キロのストレートを投げる源である。
二年の夏に、１１者連続三振という快投も演じた。
このときは１５０キロのストレートをびしびし投げていた。
３年春にひじをいため、３年の試合は、ほとんど投げず、
投げても７，８割というような状況だったため、指名は阪神１球団にとどまった。

現在…一軍二軍で登板なし。
投手の層が厚いチームのため、あせって育てずじっくり育てている様子。
そのためひじの怪我の状況も良くわからない。
現在まで、陸上部のような練習をしてきて、
最近になりやっと投球練習を始めたらしい。それ以上はわからない。
将来…怪我さえ万全なら、抜群の素材を持っているので、大投手になるだろう。
このようにひじがしなるタイプの投手は、怪我と隣り合わせなので、
慎重に育てるのが良いだろう。変化球はスライダーとカーブを投げるそうだが、
一軍では左打者を抑えるために、フォークかチェンジアップが必要だろう。
繰り返しになるがこれだけの身体能力とセンスの持ち主は、
いないといわれるほどなので、何年かたったときに
阪神の、いや日本のエースになっているかもしれない。

ビバオツ

研究者：kei

僕は今回ライオンズの西口投手について書きたいと思っています。
わからない人のために言っておきますがオツとは西口投手の略です。
新人時代に山梨学院大学の駅伝選手ジョセフ・オツオリににていたからつけられたとか(笑)

西口投手の基本データ

年度	所属	登板	勝利	敗北	投球回	奪三振	与四球	与死球	防御率	年俸
1995	西武	9	2	0	45.1	34	10	0	1.99	720
1996	西武	31	16	10	210.1	173	74	2	3.17	1400
1997	西武	32	15	5	207.2	192	68	5	3.12	4300
1998	西武	33	13	12	181	148	73	4	3.38	10000
1999	西武	29	14	10	179.1	141	55	3	3.41	10800
2000	西武	24	11	5	145.2	131	59	3	3.77	11600
2001	西武	28	14	9	165.1	143	85	6	4.35	13500
2002	西武	29	15	10	182	180	51	5	3.51	17500
2003	西武	14	6	3	76.1	69	31	3	6.84	23000
2004	西武	21	10	5	117.1	112	56	4	3.22	18400
2005	西武	25	17	5	172	137	34	9	2.77	20000
通算		275	133	74	1682.1	1460	596	44	3.51	30000

28人目の悲劇

西口投手と言えば、二度の完全試合目前での記録崩れが有名だが
これが両方とも28人目であったことを皆さんはご存知だろうか？

1回目
2002年8月26日の対千葉ロッテマリーンズ戦（西武ドーム）で、
9回2死までノーヒットノーランだったが、小坂選手に中前打されて快挙を逃した。
続くサブロー選手にも右前打されたが後続を抑えて2安打1四球、6-0の完封勝ちだった。
2回目
2005年5月13日のセ・パ交流の対読売ジャイアンツ戦（インボイスSEIBUドーム）で、
9回2死までノーヒットノーランだったが、
清水選手にスライダーをライトにホームランを打たれて快挙を逃した。
その後後続を抑えて1安打1死球、6-1の完投勝ちだった。

この二つはあと一人で記録が達成できなかったものとしてとても有名ですが、
2005年8月27日の対東北楽天ゴールデンイーグルス戦（インボイスSEIBUドーム）には、
9回終了まで完全試合だったものの、味方の援護が無く延長戦に突入し、
延長10回表に沖原選手にヒットを打たれ、完全試合を逃しているという記録もある。

以上の記録は全て28人目の打者で記録が途絶えている。
これが28人目の悲劇と言われる所以である。

西口投手はライオンズのエース？

巷ではライオンズのエースを松坂投手だと主張する人が多いそうですが、
僕は断じて西口投手だと思います。
「え？松坂でしょ。いつもたくさん三振とって勝ってるし。」
と、いうかもしれません。
しかし、エース＝目立っているピッチャーというわけではありません。
エースピッチャーとは皆からの信頼厚く、試合を作ることができ、
ここぞという場面で頼れるピッチャーのことを指すと思います。
西口投手はチームの中でリーダー的な存在で後輩からも人望が厚いです。
それに重要な場面でいつもと変わらずに飄々と投げている姿には
エースの風格があると思います。絶対的な決め球、スライダーがあるのもいいですね。
しかし彼が日本シリーズで一度も勝っていないのは秘密です(笑)
しかし彼は入団以来シーズン中は負け越したことのない投手でもあります。

西口投手の調子の見分け方

最近、彼の調子はまちまちです。
もともと調子の落差が激しい選手ではあるのですが、最近それが顕著です。
そこで、彼が調子がいいときと悪いときの見分け方を考えてみました。

・球速
142㎞出ているかどうか。これがポイントだと思います。
彼が調子がいい時はこの速さのストレートが比較的高比率でています。
しかし、最近はそこまで出ていなくて粘って勝つという投球が増えているように思われます。

・スライダーのキレ
彼の生命線は球速よりもむしろこちらの方でしょう。
俗に言う『伝家の宝刀』というやつですね。
彼のスライダーは特徴的であることで知られています。
小さく曲がるスライダーと鋭く落ちるスライダーがあります。
このスライダーは腕の振りと密接に関係しています。
腕がしっかりと振れていれば大丈夫でしょう。

・フォーム
そして、腕の振りが良くなるためにはフォームが重要です。
西口投手のフォームはリリースポイントがかなり右側であることで知られています。
これはプレートの右端からインステップして投げるからです。
この特異なフォームは球がリリースされる直前まで相手に球の軌道を読まれないという強みがありますが、一方でリリースが難しくタイミングが少しでもずれると腕がうまく振れずに球のキレを失うという結果になりかねません。
また、投球動作が大きいために打球への対応が遅れるという欠点もある。
だが、もともと彼はフィールディングが良いので大した問題にはならないであろう。
反対にそれを補ってあまりある効果を期待できるフォームであると言えるだろう。

西口投手のこれから

彼にはこれから年齢という壁が大きく立ちはだかるであろう。
彼はもともとポーカーフェイスであり、さらにピンチでも動揺しないタイプなのでこれまで通りコーナーにストレートと変化球を混ぜる投球術で良いだろう。
ただ、彼には気を抜いたときに失投をして一発を浴びるという特性があるので
ベテランになるにつれてある程度の緊張感をもって投げてほしいと思う。

追記：ちなみに彼のスライダーはよく落ちるので下方向への球は全てスライダーだと思われがちだが、彼はフォークボール、チェンジアップを持ち球にしており、時折投げている。
このフォークボールについてだが、僕にはスロー再生で球の握りを見ないとわからない。
しかし、彼のフォークボールは被安打率が１割以下だというからやはりスライダーとは少し違ったように打者には感じるのかもしれない。←フォークボールを打ったこと無い人

※次ページからの企画は、昨年の大学生・社会人ドラフトで
最上位指名された選手たちの今シーズンを追ったものです。
同様の企画として昨年の高校生ドラフト１位の選手たちの
今シーズンを追ったものがありますが、
執筆者が違うため文章のタッチが異なる場合があります。あらかじめ御了承ください。
また、１軍成績は９月18日、２軍成績は９月17日現在です。

ドラフトの星たち～大学生・社会人編～

研究者：ユースケ

1．梵英心内野手（三次高→駒澤大→日産自動車→広島）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価

50m5秒7の俊足、強肩も持ち合わせる安定感ある守備が光る。
打撃も長打力が増して都市対抗では首位打者になるなど、成長が見えている。
自分の仕事をそつなくこなす、といったタイプ。1年目からの1軍入りが予想される。

②実際の活躍

117試合　打率.284　7本塁打　34打点

今年の野手新人ナンバーワンの活躍といっていいだろう。
開幕スタメン出場を果たし、4月こそ打率.183と低迷したものの
その後は持ち味を発揮して2番・遊撃手に定着した。
特に俊足を生かした軽快な守備と8三塁打、12盗塁に表れる貪欲な走塁が光り、
昨年までの広島の課題を大いに解決している。
球団新人安打記録も更新し、セ・リーグ新人王候補にも挙がっている。

2．松崎伸吾投手（光星学院高→東北福祉大→楽天）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価

最速146kmで常時140km前後を記録するストレートに、それと数kmしか違わないシュート、
3種類のスライダーが武器。先日の神宮大会の準優勝の立役者。
楽天においては、1年目からのローテ入りも十分ありえるだろう。

②実際の活躍

10試合　0勝8敗0セーブ　防御率7.67

開幕ローテーション入りを果たし、
2軍落ちをはさんで合計8試合に先発したものの、1勝も挙げることができなかった。
原因はコントロールの甘さ。
31と3分の2回で被安打45、被本塁打6、与四死球23個では抑えられない。
ただ、2軍では13試合で3勝2敗、防御率2.90で49と3分の2回で18与四死球、
43奪三振と結果は出ているので、来年以降に期待したい。

3．福田聡志投手（伊都高→東北福祉大→巨人）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価

最速153kmを誇るストレートに、切れ味鋭いタテ・ヨコのスライダー、
さらに独特のあごを上げた威圧感たっぷりのフォームが魅力。
好不調の波が激しく、最近は不調の方にあたる。
大学では抑えをやっていたが、先発でもいけるだろう。早いうちにとにかく安定感を。

②実際の活躍

22試合　3勝2敗0セーブ　防御率5.47

開幕1軍入りを果たし、4月は11試合に登板し3勝を挙げ防御率3.09と結果を残したが、
その後は息切れして結局6月2日に2軍落ち。
6月27日に再昇格も、2試合で4失点と結果が出ず7月1日2軍落ちしてしまった。
活躍できなかった原因はコントロール。

24と3分の2回で25与四死球とイニングより多くの四死球を出してしまい、
暴投5個もかなり多い。ただ、奪三振20個が示すようにボール自体はいいので、
コントロールを磨いてほしいところだ。
現在、2軍では17試合で2勝2敗1セーブ、防御率2.73、26と3分の1回で
28奪三振ながら21与四死球とコントロールは改善されていない模様だ。

4．八木智哉（日本航空高→創価大→日本ハム）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
最速143㎞だがスピードガン以上に伸びるタイプのストレートと
右打者を苦しめるスクリューが武器。コントロールもまとまっており、
神宮大会では20奪三振での完全試合をするなど最近は好投が目立つ。
日本ハムの投手事情から、1年目からの1軍入りも十分にある。
②実際の活躍
25試合　11勝8敗0セーブ　防御率2.58
ダルビッシュの12勝に次ぐ11勝を挙げ、すっかり左のエースの地位を確立した。
開幕ローテーション入りを果たし、春先には10回をノーヒットノーランに抑えるなど
早くも実力を発揮し、現在5完投、3完封。
163と3分の2回と規定投球回数にも難なく到達した。
それでいて52与四死球と四死球からの自滅も少ない。
現在レギュラーシーズン1位通過を目指す激しい争いの続くチームに
欠かせない存在となっている。新人王候補の筆頭である。

5．武内晋一（智弁和歌山高→早稲田大→ヤクルト）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
智弁和歌山時代はスラッガーだったが、大学でアベレージヒッターにタイプが変わった。
呼び込んでセンターから右中間へと飛ぶ打球が多いが、
左中間へ打ってもボールは伸びていく。1年目からのレギュラーも十分考えられる。
②実際の活躍
12試合　打率.083　1本塁打　4打点
開幕1軍入りを果たしたが持ち前の打棒を発揮できず、4月23日に2軍落ちした。
24打数で8三振と1軍のレベルの高さを思い知らされた。2軍では50試合で

打率.285、3本塁打、28打点と結果を残しているので、来年以降に期待したいところだ。**6．**

平野佳寿（鳥羽高→京都産業大→オリックス）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
最速149㎞のストレートに、切れ味鋭いスライダーが武器。
それをコントロールよく投げ込めるし、球の回転のおかげで伸びもよい。
両サイドを広く使える投球をみせており、1年目から十分ローテに入る実力はある。
②実際の活躍
25試合　7勝11敗0セーブ　防御率3.76
開幕ローテーション入りを果たし、5月までに5勝を挙げたもののその後はやや息切れし、
8月3日以来勝ち星から見放され5連敗中である。
それでも開幕からローテーションを守り続けていることは立派であり、
10完投は松坂に次いでリーグ2位、

リーグ6位の165と3分の1回に対しての43与四死球は
コントロールが安定している証拠である。
2ケタ勝利を挙げていれば八木と新人王争いを繰り広げていただろうが、
現状では若干差をつけられてしまった感がある。

7．高宮和也（大体大浪商高→徳山大→ホンダ鈴鹿→横浜）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
最速147㎞の球威あるストレートに縦に割れる大きなカーブ、
さらにチェンジアップ、スライダーを織り交ぜる。
若干アーム気味でストレートのコントロールにややバラつきがあるが、
1年目からローテ入りする可能性も十分あるだろう。
②実際の活躍
18試合　2勝6敗0セーブ　防御率6.83
開幕1軍入りを果たし、
先発投手のコマ不足の事情も相まって4月20日にプロ初先発を果たすも、
8試合で2勝5敗と結果が出ず6月17日に2軍落ち。
7月15日に再昇格も、5試合で1敗、8失点と結果が出ず
8月6日に2軍落ちしてしまった。四死球から崩れるタイプではないものの、
55と3分の1回で被安打74では抑えられない。
2軍では10試合に登板して1勝1敗0セーブ、防御率1.76と結果は出ている。
1軍レベルまであと1歩なのだから、自分の持ち味を発揮できるよう実力を磨いてほしい。

8．松永浩典（海星高→三菱重工長崎→西武）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
最速145㎞の切れのあるストレートと
ブレーキを利かせたチェンジアップにカーブ、スライダーが武器。
コントロールもそこそこあり、「杉内二世」だとか「帆足二世」だとか騒がれている。
早いうちに1軍に上がってくるかもしれない。
②実際の活躍
10試合　3勝3敗0セーブ　防御率4.60
開幕1軍からはもれたが、先発投手陣の不調から5月17日に1軍昇格し
2試合に先発するも、0勝1敗、防御率9.95と結果が出ず6月3日に2軍落ち。
それでも2軍では13試合に登板して4勝1敗1セーブ、防御率2.87と結果を残し、
7月26日に再昇格。2試合に先発して2勝と結果を残した。
その後日程の兼ね合いもあり2試合リリーフとして登板したが先発に戻り、現在に至る。
チームの日程から考えてあと1試合、場合によっては2試合先発登板がありそうで、
レギュラーシーズン1位通過を目指す戦いに戦力としてしっかり加わっている。

9．吉見一起（金光大阪高→トヨタ自動車→中日）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
最速147㎞のストレートに、キレのあるスライダーが魅力。
最大の武器はコントロールのよさで、1つの球種でも数種類の速さに投げ分けられる。
昨年ひじを手術しているが順調に回復し現在はほぼ100％だそうだ。
まずは状態を元通りにして体を作ることが重要だ。
②実際の活躍

2試合　1勝0敗0セーブ　防御率2.84
2軍で春先から先発登板を重ね、16試合に登板して2勝7敗ながら防御率2.80を記録、
9月10日に1軍昇格を果たし、その日にプロ初登板を果たした。
その後は登板機会がなく2軍落ちするのかと思いきや9月18日にプロ初先発を果たし、
5回2失点でプロ初勝利を挙げた。
佐藤充が2軍落ちしてやや苦しくなっている先発投手陣を救うような働きが期待される。

１０．松田宣浩（中京高→亜細亜大→ソフトバンク）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
全身のばねと体の強さのおかげでヘッドスピードの速く、
ここから繰り出される打球は美しい放物線を描く。しかし、確実性にはかなり欠けるので、
まずはバッティング練習でプロのレベルを感じる必要があるだろう。
②実際の活躍
62試合　打率.211　3本塁打　18打点
開幕スタメン入りを果たし、
王監督も我慢して使い続けていたが結果が出ず6月16日に2軍落ちした。
どうしても打率が上向かず、204打数で53三振と大振りが目立っていた。
このあたりの改善が来期以降の課題となってくるだろう。
2軍でも40試合で打率.267、3本塁打、12打点といまひとつである。

１１．岩田稼（大阪桐蔭高→関西大→阪神）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
最速150㎞のストレートに、スライダー・カーブが武器。球速差は52㎞にも達する。
ひじの怪我もあるが、この投手の最大のネックは1型糖尿病であること。
これとの付き合い方が鍵になりそうだ。
②実際の活躍
1軍出場無し
今年は体力づくりの年のようで、2軍でも登板は6試合。
0勝0敗0セーブで防御率は6.75と結果は出ていないが
体力づくりが主なので焦る必要もないだろう。今後の伸びに期待したい。

１２．根元俊一（花咲徳栄高→東北福祉大→ロッテ）

①筆者の昨年ドラフト時点での評価
選球眼に加え高いミートセンスとスピードを兼ね備えた選手。
守備もグラブ捌きはよく、二塁でも遊撃でも任せられそうだ。
プロのレベルに慣れたら、すぐにでも1軍に上がってきそうな選手である。
②実際の活躍
30試合　打率.167　0本塁打　1打点
開幕1軍はならなかったが、5月10日に1軍昇格を果たし、11試合にスタメン出場するも、
打率.226と結果が出ず、6月9日に2軍落ち。
8月17日に再昇格、5試合連続で1番で出場するなど6試合にスタメン出場するも、
今度は打率.118と低迷し、8月30日に2軍落ちした。
2軍では66試合で打率.346、2本塁打、30打点、
24二塁打、10盗塁と持ち味を発揮している。
1・2軍のカベを破って来期以降、飛躍することを期待したい。

ＫＰＢクイズ2006

当研究会のメインである展示クイズ。
その全問題と解答・一部解説を載せました。
※採点前にこの解答を見た場合はランクインする権利を消失します。ご注意下さい

初級編

1．去年のセリーグホームラン王は誰でしょう？
①新井貴浩内野手　②金本知憲外野手　③Ｔ．ウッズ内野手
2．ではパリーグは？
①Ｊ．ズレータ内野手　②松中信彦内野手　③Ａ．カブレラ内野手
3．去年のセリーグ最優秀防御率は誰でしょう？
①黒田博樹投手　②川上憲伸投手　③三浦大輔投手
4．ではパリーグは？
①杉内俊哉投手　②松坂大輔投手　③斉藤和巳投手
5．去年セリーグ４位のチームはどこでしょう？
①横浜ベイスターズ　②ヤクルトスワローズ　③広島東洋カープ
6．ではパリーグは？
①北海道日本ハムファイターズ　②西武ライオンズ　③オリックスバファローズ
7．「梵」の正しい読みを答えなさい
①そよぎ　②ぼん　③よそぎ
8．「憲史」の正しい読みを答えなさい
①のりふみ　②けんし　③けんじ
9．「有銘」の正しい読みを答えなさい
①ありめい　②ゆうめい　③ありめ

解答
1．①新井選手　2．②松中選手　3．③三浦投手　4．①杉内投手　5．②ヤクルト
6．③オリックス　7．①そよぎ　8．②けんし　9．③ありめ

背番号編①～意味ありげな背番号～

1．次のうち、背番号0の選手がいないのはどのチームでしょう？
　①西武　②ソフトバンク　③日本ハム
2．では、背番号00がいないチームはいくつあるでしょう？
　①0チーム　②1チーム　③2チーム
3．では、次のうち背番号99の選手がいるのはどのチームでしょう？
　①中日　②阪神　③ヤクルト
4．一般的に日本人に嫌われている背番号といえば42。
　では、次のうち背番号42を日本人がつけているチームはどのチームでしょう？
　①ロッテ　②オリックス　③楽天
5．逆に、外国人に嫌われている背番号といえば13。
　では、12球団で背番号13をつけた外国人選手がいるチームはいくつあるでしょう？
　①0チーム　②1チーム　③2チーム
6．ピッチャーのエースナンバーといえば18。
　では、次のうち背番号18をつけているエースを答えなさい。
　①三浦大輔投手　②黒田博樹投手　③上原浩治投手

プロ野球珍記録コラム：ノーヒットなのに勝利①（同点編）

昭和14（1939）年5月6日、甲子園球場で行われた阪急対南海の3回戦。
南海が1点を先制して迎えた6回裏、ここまでノーヒットの
阪急の先頭バッターが四球で出塁して続くバッターは送りバントを試みた。
が、打球処理を焦ってファンブルし、オールセーフになってしまう。
そして続くバッターが送りバントをして一死二、三塁、さらに死球で一死満塁とする。
ここできっちりとレフトへ犠牲フライを打ち上げ、ノーヒットで同点とした。（続く）

解答
1．③日本ハム　2．③2チーム　3．②阪神
4．②オリックス　5．①0チーム　6．①三浦投手
解説
1．西武は高波文一外野手、ソフトバンクは仲澤忠厚内野手。
2．背番号00の選手がいないのは西武・日本ハムの2チーム。
　ソフトバンクはD・J・カラスコ投手、ロッテは代田建紀外野手、オリックスは軒作投手、楽天は森谷昭仁外野手、中日は柳沢裕一捕手、阪神は秀太内野手、ヤクルトは久保田智外野手、巨人は大西崇之外野手、広島は山崎浩司内野手、横浜は河野友軌外野手。
3．筒井壮内野手。
4．ロッテはケビン・バーン投手、オリックスは萩原淳投手、
　楽天はホセ・フェルナンデス内野手。
5．西武は西口文也投手、ソフトバンクは高橋秀聡投手、日本ハムは須永英輝投手、
　ロッテは浅間敬太投手、オリックスは柴田誠也投手、楽天は小倉恒投手、
　中日は岩瀬仁紀投手、阪神は中村泰広投手、ヤクルトは佐藤賢投手、
　巨人は野間口貴彦投手、広島は佐竹健太投手、横浜は那須野巧投手。
6．黒田は背番号15、上原は背番号19。

背番号編②～永久欠番～

1．次のうち、最も多くの球団で永久欠番となっている背番号はどれでしょう？
　①1　②10　③100　④全て同じ数
2．次のうち、最も多くの球団で永久欠番となっている背番号はどれでしょう？
　①14　②15　③16　④全て同じ数
3．次のうち、どの球団でも永久欠番になっていない背番号はどれでしょう？
　①1　②11　③21　④全て永久欠番
4．次のうち、どの球団でも永久欠番になっていない背番号はどれでしょう？
　①3　②13　③23　④全て永久欠番
5．現在、永久欠番が定められている球団はいくつあるでしょう？
　①5球団　②7球団　③9球団　④11球団
6．現在、最も多く永久欠番が定められている球団はどこでしょう？
　①阪神　②巨人　③広島　④楽天

プロ野球珍記録コラム：ノーヒットなのに勝利②（勝ち越し編）

さらに7回裏の阪急の攻撃。
またもや先頭バッターが四球で出塁し続くバッターのバントは三塁前へ。
しかしこれをサードが大暴投してしまい、
ボールがファールグラウンドを転々とする間に
一塁走者がホームインしてノーヒットで勝ち越した。
試合はこのまま逃げ切り2対1で阪急が勝ったが、
結局最後まで阪急にヒットは出なかった。
おそらくこの珍記録をもう一度見られることはないだろう。

解答
1．②10　2．④全て同じ数　3．③21　4．②13　5．②7球団　6．②巨人
解説
1．1は巨人（王貞治内野手）のみで1球団。
　10は中日（服部受弘投手／捕手）・阪神（藤村富美男内野手）
　楽天（イーグルス・ファン）で3球団。
　100は日本ハム（大社義規球団初代オーナー）
　横浜（球団に対して貢献のある複数の著名人）で2球団。
2．14は巨人（沢村栄治投手）のみで1球団、
　15も中日（西沢道夫投手／内野手）のみで1球団、
　16も巨人（川上哲治内野手）のみで1球団。
3．1は巨人（王貞治内野手）、11は阪神（村山実投手）。
4．3は巨人（長嶋茂雄内野手）・広島（衣笠祥雄）、23は阪神（吉田義男内野手）。
5．日本ハム・楽天・中日・阪神・巨人・広島・横浜。
　他球団にも準永久欠番や期間限定の欠番は存在するが、永久欠番は存在していない。
6．巨人は1・3・4・14・16・34の6つ。以下、阪神が10・11・23の3つ、中日が10・15、広島が3・8の2つ、日本ハムが100、楽天が10、横浜が100の1つと続く。

ＫＰＢクイズ2006　背番号編③
～今年ブレイクした選手たち（パリーグ編）～

1．帆足和幸投手の不調を見事に埋めて余りある大活躍を見せる
　涌井秀章投手の背番号を答えなさい。
2．ルーキーにしてリリーフとしてチームで1、2を争う登板数を誇る
　藤岡好明投手の背番号を答えなさい。
3．ルーキーにして2ケタ勝利を挙げて左のエースとなった
　八木智哉投手の背番号を答えなさい。
4．6月からチームに合流し、シュアなバッティングを見せている
　マット・ワトソン外野手の背番号を答えなさい。
5．ルーキーながら先発ローテーションを守り安定感を見せている
　平野佳寿投手の背番号を答えなさい。
6．3年ぶりに日本に復帰し、磨きがかかったシュアなバッティングを見せている
　リック・ショート内野手の背番号を答えなさい。

プロ野球珍記録コラム：1イニング2併殺打①（状況説明編）

1イニング2併殺打は3チームが記録しているが、そのうちの最古のものを紹介しよう。
昭和37（1962）年8月1日の南海対東映戦。無死満塁で、バッターがセカンドゴロを打った。
4-6-3とボールが転送されたのだが、
一塁手が送球を落としてしまい、アウトがひとつしか取れなかった。
さらに次のバッターが、またしてもセカンドゴロを打った。
今度は4-6-3ときれいに転送されて、ダブルプレーになった。
これにより1イニングで2つの併殺打が生まれた。
では、なぜ1イニングには3アウトしかないのに2つの併殺打が記録されたのか。（続く）

解答
1．16（涌井投手）　2．40（藤岡投手）　3．29（八木投手）
4．19（ワトソン選手）　5．16（平野投手）　6．55（リック選手）

背番号編④～今年ブレイクした選手たち（セリーグ編）～

1．彗星のごとく現れ球団タイ記録の5試合連続完投をやってのけた
　佐藤充投手の背番号を答えなさい。
2．2年目にして出場機会を得て、力強いピッチングを見せている
　ダーウィン・クビアン投手の背番号を答えなさい。
3．宮本慎也内野手、グレッグ・ラロッカ内野手の故障の穴を埋めている
　田中浩康内野手の背番号を答えなさい。
4．外国人枠に縛られながらも8月に1軍定着し好投を続けている
　姜建銘投手の背番号を答えなさい。
5．ルーキーながらレギュラーに定着し、リーグ最多三塁打を記録している
　梵内野手の背番号を答えなさい。
6．故障による長期離脱がありながらもチーム2位の本塁打数を記録している
　吉村裕基外野手の背番号を答えなさい。

プロ野球珍記録コラム：1イニング2併殺打②（解説編）

実は、併殺打と併殺は区別されているのだ。
1連のプレーの中で2つのアウトをとれば併殺となるが、
併殺打となるのはバッターよりもランナーが先にアウトになった場合のみである。
さらに、
「打者が併殺打となるようなゴロを打ったとき、第一アウトが成立した後、
　第二アウトに対する送球を野手が捕らえ損じたために
　その野手に失策が記録されたときのように、
　併殺が完成されなかった場合でも、その打者には併殺打を記録する」
という規則があるので1つ目のプレーも併殺打となり、
1イニング2併殺打となった、というわけである。

解答
1．16（佐藤投手）　2．59（ダーウィン投手）　3．7（田中選手）
4．97（姜投手）　5．32（梵選手）　6．31（吉村選手）

記録編①～通算記録～

1．世界に誇れる王貞治内野手の通算本塁打記録は何本でしょう？
　①756本　②868本　③1065本
2．地味だが立派な世界記録、川相昌弘内野手の通算犠打記録は何個でしょう？
　①512個　②527個　③532個
3．安打製造機の異名をとった張本勲外野手の日本記録、通算安打記録は何本でしょう？
　①2390本　②3017本　③3085本
4．金田正一投手の日本記録、通算勝利記録は何勝でしょう？
　①300勝　②350勝　③400勝
5．人間機関車の異名をとった米田哲也投手の日本記録、通算登板記録は何試合でしょう？
　①944試合　②949試合　③954試合
6．ケンカ投法の異名を取った東尾修投手の日本記録、通算与死球記録は何個でしょう？
　①165個　②196個　③227個

プロ野球珍記録コラム：1球なのに奪三振、2ストライクなのに三振①（状況説明編）

昭和35（1960）年、4月10日の後楽園での国鉄対巨人戦。
8回表の巨人は、二死ながら一、二塁とした。
ピッチャーはカウントを2-3にしたが、ここで見切りをつけてリリーフに交代した。
対する巨人も交代した投手との相性から代打を出した。しかし、あえなく三振に倒れた。
タイトルから分かるように、記録は救援投手に奪三振がつき、
最初に打席にいた打者に三振がつくのだが、なぜだろうか？（続く）

解答
1．②868本　2．③532個　3．③3085本　4．③400勝　5．②949試合　6．①165個
解説
1．756本は世界記録を更新したときの数字。
　1065本は通算本塁打記録とは無関係で、福本豊外野手の日本記録、通算盗塁の数である。
2．512個は世界記録を更新したときの数字。527個は今シーズンが始まる時点での数字。
3．2390本は通算安打記録と無関係で、王貞治内野手の日本記録、通算四球の数である。
　3017本も通算安打記録と無関係で、野村克也捕手の日本記録、通算出場試合の数である。
4．350勝は通算勝利数2位の米田哲也投手の記録である。
5．944試合は通算登板試合数2位の金田正一投手の記録である。
6．196個は通算与死球記録と無関係で、清原和博内野手の日本記録、通算死球の数である。

記録編②～連続記録～

1．鉄人の異名をとった衣笠祥雄内野手の日本記録、連続試合出場は何試合でしょう？
　①1768試合　②2215試合　③2632試合
2．イチロー外野手の日本記録、連続打席無三振は何打席でしょう？
　①208打席　②210打席　③216打席
3．高橋慶彦内野手の日本記録、連続試合安打は何試合でしょう？
　①33試合　②44試合　③56試合
4．次のうち、日本記録である11打数連続安打を記録していないのは誰でしょう？
　①掛布雅之内野手　②ロバート・レイノルズ外野手　③高橋由伸外野手
5．次のうち、日本記録である7打席連続本塁打を記録していないのは誰でしょう？
　①王貞治内野手　②ランディ・バース内野手　③アレックス・カブレラ内野手
6．次のうち、日本記録である9者連続奪三振を記録していないのは誰でしょう？
　①梶本隆夫投手　②土橋正幸投手　③江夏豊投手

プロ野球珍記録コラム：1球なのに奪三振、2ストライクなのに三振①（解説編）

投手は、カウント途中から投手交代して、
0-2、1-2、0-3、1-3、2-3から四球になった時以外はすべて救援投手の責任となる、
という規則があり、
今回は2-3での交代だが三振で終了したので救援投手に奪三振が記録される。
打者は、打者が2ストライク後、
退いて代わった打者が三振に終わった時は、最初の打者に三振を記録する、
という規則があり、今回は2ストライクになったのは
交代前の打者だからそちらに三振がつく、というわけである。

解答
1．②2215試合　2．③216打席　3．①33試合
4．①掛布選手　5．③カブレラ選手　6．③江夏投手
解説
1．1768試合は松井秀喜外野手の連続試合出場の数であり、
　2632試合はカル・リプケン内野手の連続試合出場のメジャーリーグ記録である。
2．208試合はイチロー外野手が破る前の日本記録保持者である
　藤田平内野手の連続打席無三振の数であり、216打席は連続打席無三振記録とは無関係で、
　イチロー外野手が記録した年間安打数の数である。
3．44試合はピート・ローズ外野手の連続試合安打のメジャーリーグ歴代2位の記録であり、
　56試合はジョー・ディマジオ外野手の連続試合安打のメジャーリーグ記録である。
4．掛布雅之内野手は当時の日本記録、10打席連続安打を記録している。
5．アレックス・カブレラ内野手はパリーグ記録である6試合連続本塁打を記録している。
6．江夏豊投手は公式戦ではなくオールスターで9連続奪三振を記録している。

記録編③～投手主要３部門の記録～

※以下の記録は２リーグ制以後のものとします。

１．日本プロ野球史上最も良い防御率で最優秀防御率を獲得したのは
村山実投手ですが、何点で獲得したでしょう？
①0.73　②0.98　③1.06

２．逆に、日本プロ野球史上最も悪い防御率で最優秀防御率を獲得したのは
戎信行投手ですが、何点で獲得したでしょう？
①3.26　②3.27　③3.28

３．日本プロ野球史上最も多くの勝利を挙げて最多勝を獲得したのは
稲尾和久投手ですが、何勝を挙げたのでしょう？
①33勝　②35勝　③42勝

４．逆に、日本プロ野球史上最も少ない勝利数で最多勝を獲得したのは
西口文也投手・武田一浩投手・黒木知宏投手ですが、何勝を挙げたのでしょう？
①12勝　②13勝　③14勝

５．日本プロ野球史上最も多くの三振を奪って最多奪三振を獲得したのは
江夏豊投手ですが、何個の三振を奪ったのでしょう？
①226個　②353個　③401個

６．逆に、日本プロ野球史上最も少ない奪三振数で最多奪三振を獲得したのは
柚木進投手ですが、何個の三振を奪ったのでしょう？
①99個　②104個　③113個

解答

１．②0.92　２．②3.27　３．③42勝　４．②13勝　５．③401個　６．②104個

解説

１．0.73は１リーグ時代に最も良い防御率で最優秀防御率を獲得した藤本英雄投手の記録で、
1.06はパリーグで最も良い防御率で最優秀防御率を獲得した稲尾和久投手の記録である

２．3.26は２番目に悪い防御率で最優秀防御率を獲得した
ネイサン・ミンチー投手の防御率である。

３．33勝、35勝は両方とも稲尾が最多勝を獲得した1957年、1958年の時の勝ち星である。
ちなみに、42勝したのは1961年である。

４．14勝はメルビン・バンチ投手・松坂大輔投手
藤井秀悟投手が記録している最多勝の勝利数である。

５．226個は昨年の最多奪三振、松坂大輔投手の記録であり、
353個は江夏豊投手が破る前の日本記録保持者、稲尾和久投手の日本歴代２位の記録。

６．113個は１リーグ時代に
最も少ない奪三振数で最多奪三振を記録した藤本英雄投手の記録である。

記録編④～野手主要３部門の記録～

1. 日本プロ野球史上最も高打率で首位打者を獲得したのは
ランディ・バース内野手ですが、どのぐらいの記録を残しているでしょうか？
①.387　②.389　③.426

2. 逆に、日本プロ野球史上最も低打率で首位打者を獲得したのは
森永勝治外野手ですが、どのぐらいの記録を残しているでしょうか？
①.286　②.300　③.307

3. 日本プロ野球史上最も多い本塁打数で本塁打王を獲得しているのは
王貞治内野手・タフィ・ローズ外野手・アレックス・カブレラ内野手ですが、
何本塁打を放ったのでしょう？
①55本　②56本　③73本

4. 逆に、日本プロ野球史上最も少ない本塁打数で本塁打王を獲得しているのは
佐藤孝夫内野手・青田昇外野手・藤本勝己内野手ですが、何本塁打を放ったのでしょう？
①2本　②12本　③22本

5. 日本プロ野球史上最も多くの打点で打点王を獲得したのは
小鶴誠外野手ですが、何打点を挙げたでしょう？
①142打点　②153打点　③161打点

6. 逆に、日本プロ野球史上最も少ない打点で打点王を獲得したのは
宮本敏雄外野手ですが、何打点を挙げたでしょう？
①69打点　②79打点　③89打点

解答

1. ②.389　2. ③.307　3. ①55本　4. ③22本　5. ③161打点　6. ①69打点

1. .387はイチロー外野手が記録した日本歴代2位の記録であり、
.426はナップ・ラジョイ内野手が記録したメジャーリーグ記録である。

2. .286は1リーグ時代に最も低打率で首位打者を獲得した呉波外野手の記録で、
.300は①リーグ時代に呉昌征外野手（呉波外野手と同一人物。登録名を変更。）が
.286で首位打者を獲得した翌年に首位打者を獲得した時の記録である。

3. 56本はイ・スンヨプ内野手が韓国時代に記録したアジア記録であり、
73本はバリー・ボンズ外野手が記録したメジャー記録である。

4. 2本は1リーグ時代に最少本塁打で本塁打王を獲得した
藤村富美男内野手・山下実外野手・古谷倉之助内野手の記録である。

5. 142打点は1リーグ時代に最も多くの打点で打点王を獲得した
藤村富美雄内野手の記録であり、
153打点はロバート・ローズ内野手が記録した日本歴代2位記録である。

6. 79打点は宮本敏雄外野手が69打点で打点王になる前年の打点王、
川上哲治内野手の記録した数である。

チャレンジ編

1．現在オリックスバファローズに所属する次の選手の中から元近鉄の選手を選びなさい
①下山真二外野手　②大西宏明外野手　③中村紀洋内野手　④平野恵一内野手
⑤早川大輔外野手　⑥田中彰内野手　⑦後藤光尊内野手　⑧相川良太外野手
⑨塩崎真内野手　⑩水口栄二内野手　⑪阿部真宏内野手　⑫香月良太投手

2．次の選手の中からいわゆる松坂世代の選手を選びなさい
①小池正晃外野手　②川崎宗則内野手　③井生崇光外野手　④鳥谷敬内野手
⑤梵英心内野手　⑥石川雅規投手　⑦稲嶺誉内野手　⑧正田樹投手
⑨實松一成捕手　⑩岩舘学内野手　⑪久保康友投手　⑫田中賢介内野手

3．次の選手の中からプロでマウンド経験のある選手を選びなさい
①礒部公一外野手　②岩村明憲内野手　③金城龍彦外野手
④宮出隆自外野手　⑤石井琢朗内野手　⑥嶋重宣外野手

解答
1．①下山選手　②大西選手　③中村選手　⑩水口選手　⑪阿部選手　⑫香月投手
2．①小池選手　③井生選手　⑤梵選手　⑦稲嶺選手　⑨實松選手　⑪久保投手
3．④宮出選手　⑤石井選手　⑥嶋選手

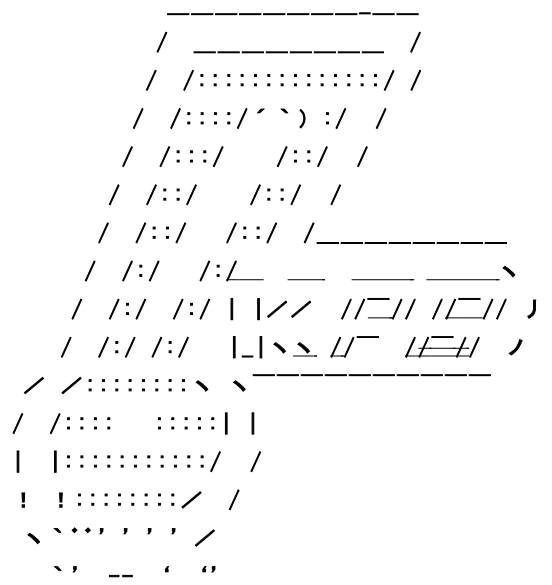
プロ野球珍記録コラム：一度も守備機会の無かった一塁手①（序盤編）

昭和57（1982）年5月23日、
秋田で行われた近鉄対西武のダブルヘッダー第2試合で起こった話。
このゲーム2人がファーストを守ったが両者とも守備機会ゼロ。
全てフライや三振などで終わったわけではなく、もちろん近鉄打線は内野ゴロを打っている。
まず、いきなり初回先頭打者がセカンドゴロを打っている。
が、この打球は一・二塁間に飛んだために、
一塁で送球を受けたのはベースカバーに走った投手だった。
2回、二死一塁でバッターはサードゴロ。
打球をさばいた三塁手は二塁へ送球して一塁走者をアウトにしてスリーアウト。
3回、無死二塁でバッターはピッチャーゴロを打った。普通なら一塁へ送球するところだが、
二塁走者が飛び出してしまい、投手は三塁へ送球して二塁走者をアウトにした。（続く）

プロ野球珍記録コラム：一度も守備機会の無かった一塁手②（完結編）

そしてその後ゴロは無く最終回、一死一塁でバッターはサードゴロを打った。
三塁手から二塁手へ送球してフォースアウト、一塁に転送してダブルプレー…と思いきや、
一塁走者が巧みにスライディングして、一塁送球を阻んでしまったのである。
結局、西武の一塁手は、投手からの牽制球を受けるのみだった。
ちなみに、記録的に非常に地味だったこの記録は
スコアをとっていた公式記録員も見過ごしており後日記録を整理して初めて判明したそうだ。

本日はプロ野球研究会にお立ち寄り戴き
本当にありがとうございました



2006年9月23日　初版第1刷発行
超編集
ＫＰＢ
文章作成
ＫＰＢ団

この後もごゆっくりと
●●学園135th文化祭をお楽しみ下さい
プロ野球研究会一同

Copyright (C) 2005-2006 K**** Academy Professional Baseball Research Circle A part of rights reserved.